

上砂川町

上砂川の未来を考える（総合的な学習の時間）

〈 期 日 〉

令和5年（2023年）11月30日（木）

〈 会 場 〉

上砂川町役場 大会議室

〈 参加児童生徒数 〉

13名（中学生13名）



【町づくりアイデアの提言の様子】

1 事業の概要

上砂川町立上砂川中学校第1学年の総合的な学習の時間において、生徒が自ら考え、町づくりのアイデアについて、町長へ提言した。

本学習においては、ゲストティーチャーを招き、町の課題を踏まえて、アイデアをまとめ、発表した。

上砂川町をよりよくしていくために、町づくりについて、生徒一人一人が自分事として捉え、上砂川町の未来を考え、町づくりに関心をもつ機会とする。

【内容】

- ゲストティーチャーによる講話を踏まえ、上砂川町の町づくりについて考え、発表
- 町長への提言

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- ゲストティーチャーによる講演
上砂川町地域おこし協力隊及び会社代表等の地域の方を講師とし、町の課題からアイデアを形にするための実践的なポイントなどについて学び、積極的な意見交換を行った。
- 提言のまとめ
4つのグループに分かれ、テーマを決めた後にインターネットなどを使って情報収集を行い、プレゼンテーション資料を作成した。
生徒は、「子どもが楽しめる公園づくり」「人を呼び込む新たな建造物づくり」「シカ肉の活用」「プールと飲食店づくり」等をテーマに、プレゼンテーションにまとめた。
- 発表の準備
生徒がプレゼンテーション資料を示した発表に向けたリハーサルを重ねることで、発表時の心構えや効果的な伝え方を考え、自信につながるように工夫した。
- 町長への提言「町づくりアイデアの提言」
生徒が考えた町づくりのアイデアについて、グループごとに対面で、町長へ提言を行った。提言内容について意見交流を行い、実現に向けた町政に反映させることとした。

3 今後の展望

- 今後も、生徒が自分の住む町をよりよくしていくための町づくりについて考える機会を通して、郷土への愛着を育む。
- 生徒が提言した課題について、町の事業に反映させるなど、生徒の取組がよりよい町づくりにつながっていく達成感を養う。

恵庭市

なかよしさわやかDAY

〈 期 日 〉

令和6年(2024年)7月23日(火)

〈 会 場 〉

恵庭市民会館 中ホール

〈 参加児童生徒数 〉

44名(小学生(8校)・中学生(5校))

1 事業の概要

各学校において、いじめの未然防止に向けた取組を進めるとともに、いじめが発生した場合には速やかに対応することやいじめを受けて苦しんでいる児童生徒がいれば、児童生徒同士で互いに声をかけ合い、助け合える環境をつくるのが大切である。そのため、いじめのない明るい学校環境づくりを目指した「なかよしさわやかDAY」全市交流会を実施し、全体の意識を高めたい。

○ テーマ 「みんなで考えよう!いじめをなくすためにできること」

①なぜ、いじめは起こるのか。なぜいじめはなくなるのか。

②いじめをなくすためにどのようなことができるか。

<友達として> <自分として> <児童会・生徒会として>

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

市内全小・中学校の児童会・生徒会が集い、いじめのない学校づくりに向けた取組のさらなる活性化や小・中学校間の連携を図ることを目的に、いじめ問題についてグループ協議を行い、その内容をグループごとに発表し、意見交流できる機会を設定した。

○ 学校におけるいじめ問題に対する取組について、各校が参考にできるよう、動画を用いて当番校による取組発表を行った。

【恵み野旭小学校】

「開けとびら」～心に響く挨拶～について発表

【恵庭中学校】

いじめ撲滅に向けた校内なかよしさわやかDAYの取組

○ 小中混合で、7グループに分かれて情報共有や交流、協議を行った。その後、グループごとに小学生1名、中学生1名が協議した内容について発表を行った。

3 今後の展望

○ 今年度は、参加した児童生徒の体験等をもとに、考えを発表し合う場面を設定したことにより、いじめに対する自分の考えをもち、周りの仲間への気持ちや自分だったらどうするかということを考え、伝え合うことができた。

○ 今後も、本取組において、児童生徒自身がいじめについての認識を深め、自分の考えを自由に述べ合い、考えたことや学んだことを学校に持ち帰り、実践したり広めたりすることができるようにする。

真狩村

真狩村いじめゼロ子どもサミット

〈 期 日 〉

令和6年(2024年)11月12日(火)

〈 会 場 〉

真狩村公民館

〈 参加児童生徒数 〉

142名(小学生43名、中学生41名、高校生58名)



1 事業の概要

○ 目的

真狩村の児童生徒が一堂に会し、各学校における「いじめ根絶」の取組を交流すること等を通して、一人一人が「いじめは絶対に許されない」という気持ちを強め、自分たちの手でいじめをゼロにしようという意識を高める。

○ 内容

- ・「いじめゼロ ほっこりメッセージ」の発表
- ・各学校の取組紹介
- ・ミニ講演(外部講師:後志教育局教育支援課指導主事)
- ・「真狩村いじめゼロ宣言」の発表

真狩村いじめゼロ宣言

この宣言をいかなる時にも持ち続け、多くの人に広め、真狩村のゆりの花のように、明るくいじめゼロの学校、いじめゼロの真狩村を目指し、自分を磨いていくことをここに誓います。

令和6年11月12日

第1回真狩村いじめゼロ子どもサミット

いじめゼロ ほっこりメッセージ

最優秀賞
真狩高校1年

「みんなで守ろう
みんなの気持ちと
みんなの笑顔」

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 各学校で児童生徒から「いじめゼロ ほっこりメッセージの募集」を実施し、取組を通して、いじめを防止する当事者としての意識を高めるとともに、学校運営協議会の委員が選考した最優秀賞及び優秀賞を本サミットで発表することにより、児童生徒一人一人がこれらのメッセージを日常の行動にうつしていくことを確認し合った。
- 取組紹介では、小学校は学級ごとに制作した「いじめ防止動画」の紹介、中学校は生徒会による「いじめ防止ポスター」等の紹介、高等学校はグループで検討した「いじめ防止策」等を小・中学生にワールド・カフェ方式で紹介するなど、それぞれの校種で表現方法を工夫した。また、各学校の取組に対して異校種からの感想をもらうなど、次の活動へつながるフィードバックを得られるようにした。
- ミニ講演では、外部講師による児童生徒の主体的な取組の価値付けや今後の取組の参考となる事例等の紹介を行った。
- 「真狩村いじめゼロ宣言」や「いじめゼロ ほっこりメッセージ」を各学校や村内の公共施設等に掲示し、児童生徒や保護者、地域住民にも周知した。

3 今後の展望

- 各学校における「真狩村いじめゼロ宣言」に基づいた取組の推進に向けて、本サミットの内容を生かした児童生徒会主体のいじめ防止の取組の更なる活性化を図る。
- 本サミットの具体的な内容について、村の広報やホームページ、学校便り等を通じて周知し、保護者、地域、関係機関等と連携を図る。
- 本サミット開催をきっかけに、学校・家庭・地域が連携して児童生徒が安心して相談できる環境づくりを進めるとともに、児童生徒がいじめについて考え、行動できるようにする。

登別市

「鬼っ子フォーラム」

〈 期 日 〉

令和6年（2024年）11月15日（金）

〈 会 場 〉

登別市民会館

〈 参加児童生徒数 〉

30名（小学生16名、中学生11名、高校生3名）

【鬼っ子宣言2024】

○みんなが楽しく過ごすための約束

・一人ひとりの個性を大切に認め合う

・互いを思いやり笑顔あふれる学校を目指す

1 事業の概要

市内小・中学校、中等教育学校、高等学校の児童会・生徒会代表が一堂に会し、いのちの重さや人としての生き方、人との関わりについて考えを深める機会とする。

【令和6年度の実施内容】

- 「鬼っ子宣言(案)」の提案と決定・「ピンクシャツデー」の提案
- 各学校の取組発表
- トークセッション：テーマ「みんなが通いたくなる学校について」
- 児童生徒と教育長・PTA連合会会長による意見交換会：テーマ「きまりは必要か」「多様性について」

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

「鬼っ子フォーラム」は令和3年度から開始し、今年度で4回目を迎えた。開始した当初は、市教育委員会が主導してフォーラムの内容を決めていたが、毎年度児童生徒を対象としたアンケート結果の内容を次年度のフォーラムに反映するようにしている。昨年度のアンケートで「大人と話したい」との声が複数寄せられていたことから、今年度は意見交換会を実施した。また、児童生徒が主体となり、フォーラムを創り上げるようにしている。

【事前ワークショップについて】

- フォーラムの開催に当たり、事前ワークショップを2回開催した。1回目は「どのようなフォーラムにしたいのか」について話し合い、役割分担とフォーラム当日に提案する「鬼っ子宣言(案)」を決めた。2回目は役割毎に、事前に準備することや当日の進め方について話し合った。

【当日までの準備について】

- 事前ワークショップだけでは発表資料の作成など十分な準備ができないため、Googleのclassroom上で、進捗状況を確認しあったり、発表資料を提出したりするなどの準備を進めた。

3 今後の展望

- 今後についても、児童生徒が主体的にいのちの重さや人としての生き方、人との関わりについて考えを深める機会を設け、参加者が話し合った内容を各学校に持ち帰り、みんなが通いたくなる学校づくりにつながるよう取り組んでいく。



えりも町

正しい知識を身に付ける情報リテラシー講座

〈 期 日 〉

令和6年（2024年）12月10日（火）

〈 会 場 〉

えりも町立えりも小学校

〈 参加児童生徒数 〉

教育委員会職員・町内小中学校職員・保護者 76名



1 事業の概要

(1) 目的

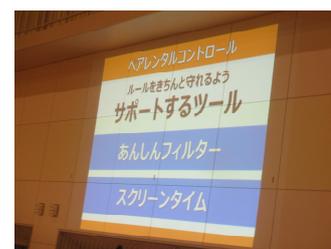
- ・「未来を創造する健康でたくましい子どもを育てる」をテーマに、親と教師がともに研修を深めることにより、家庭・学校・地域が、相互に連携を図りながら、説明・講演の内容を、今後の子どもへの指導や支援に生かすことができるようにする。

(2) 内容

- ・子どものインターネット、スマートフォン等の使用状況について、北海道の現状を把握することにより、家庭・学校・地域が取り組むべき課題について理解を深める。
- ・インターネットの適切な利用に係る講演を通して、参加者が子どもを取り巻く状況について理解を深め、子どもの円滑な人間関係づくりに向け、家庭・地域・学校の連携の在り方を考える。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 児童生徒のインターネット、スマートフォン等の使用状況について
 - ・家庭でのルールづくりなど、子どもがインターネット、スマートフォン等を使用する際、適切な対応が必要であることについて、参加者の理解を深めるため、日高教育局職員が、道徳教育と情報モラル教育のつながりについて、説明する時間を設定した。
- 講演会「情報リテラシー」
 - ・子どものインターネットの具体的な活用の状況、SNS等の危険性や個人情報の取扱いの課題等について理解を深めるため、講演を設定した。
 - ・講演では、インターネット等の危険性から子どもを守ることができるように、フィルターやスクリーンタイムを設定する方法についてもお話していただいた。



3 今後の展望

- 家庭・学校・地域が連携した、子どもの安心安全な居場所づくりや絆づくりの重要性について、多くの関係者に情報提供する機会を設けることができるよう、子どもを取り巻く現代的な諸課題について取り上げ、講演等を通じて、理解を深めるとともに、課題を解決するためにオンデマンド方式による配信など、研修会の内容をさらに広く周知する必要がある。

七飯町

教育委員会が主体となったいじめ防止に係る取組

〈 期 日 〉

令和6年（2024年）7月

〈 会 場 〉

町内各学校

〈 児童生徒数 〉

1,971名（小学生1,305名、中学生666名）



1 事業の概要

七飯町教育委員会では、いじめ防止に向けた取組として以下のような取組を行っている。

- いじめ防止基本方針の施策として、毎年7月にいじめ根絶月間を設定し、小中学校でのいじめ根絶に向けた取組を行うとともに、町民に向けて、いじめの防止等に関する啓発を行った。
- いじめ根絶月間の取組では、小中学校の児童生徒にいじめ防止標語を募集するとともに、審査を行い、入賞者を表彰した。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

本取組では、七飯町全体で「いじめ根絶」に向けた風土の醸成が図られるよう、児童生徒一人ひとりが当事者意識をもちながら、いじめを許さない意識と態度を育むために意図的に考える機会を設け、次のような工夫を行った。

- いじめ防止標語の応募区分を小学校低学年、小学校高学年、中学校の3部門を設定した。
- 小学校低学年は用紙での応募を行い、小学校高学年及び中学校においては Google フォームでの応募とした。
- 入賞した作品を、七飯町のホームページや広報誌において紹介し、町民等への周知を行うとともに、「いじめ根絶」に向けた風土の醸成を図った。
- 入賞した作品を、啓発グッズにして、町内の児童生徒に配付した。



3 今後の展望

令和3年度から事業を開始し、今後も継続して活動するとともに、児童生徒がいじめ防止に対する意識を高めるだけでなく、地域全体で「いじめ根絶」に向けた風土の醸成に取り組みたい。

- 本事業と各学校の教育活動がつながりをもつよう働きかけていくとともに、児童会・生徒会活動や絆づくりの取組などを町内小中学校で交流する場を設定し、いじめ等の問題解決に向けた取組の活性化を図る。

奥尻町

いじめ根絶子ども会議

〈 期 日 〉

令和6年(2024年)11月14日(木)

〈 会 場 〉

奥尻町海洋研修センター多目的ホール

〈 参加児童生徒数 〉

11名(小学生4名、中学生3名、高校生4名)

1 事業の概要

奥尻町の児童・生徒が、いじめ問題について自ら考えたり行動したり、周囲に対して積極的にいじめ根絶を訴えたりするなどの活動を通して、児童・生徒一人一人に、いじめは人間として許されないことや、社会性や規範意識、人間尊重の意識をしっかりと身につけるために実施。

～内容～

- 全体協議1 「いじめ根絶」に向けた各校の取組内容・成果・課題について交流
- アイスブレイク 教育相談員によるアイスブレイク
- グループ協議 「どうすれば相談しやすくなる？」をテーマに小学生と中高生が2グループに分かれて交流
- 全体協議2 2グループによる協議のまとめ発表、会議の感想交流

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 参加する児童生徒が話しやすい雰囲気を作るため、交流の前にアイスブレイクを実施
- 高校生を中心としたグループ協議
- グループ協議は全体協議の場所から移動して、話しやすい形で実施
- 小学生から高校生まで交流しやすいテーマ設定
- 困ったときの相談先について、意見を交流し、記録用紙をまとめて情報共有

3 今後の展望

- 会議後、会議に参加した児童生徒が会議内で交流したことを児童会や生徒会で交流し、今後、どのような取組を各校で考えているのかを検討するとともに、後日、会議実施後のアンケートを実施し、各校の今後の展望について共有を図った。
- 他校の取組から、直接的な「いじめ根絶」という取組より、「お互いをより知り合う場」を今後も設定していく。
- 複数の学校から出された「相談BOXがあまり活用されない」という課題について検討し、各校において「相談BOX」の他に、ホワイトボードも掲示板として活用するなどの取組を始めている。
- いじめ未然防止の観点から「いじり」という言葉に注目し、全校で考える機会を設定できるように、児童会や生徒会等で企画をする。
- 中学校では、会議で出された取組を参考にして、ポスターの掲示、用紙の定期的な配付、目安箱の設置場所を変更するなど、利用しやすい環境づくりを実施する。
- 全ての校種の代表者で話し合ったことについて、自分たちの意見を花にして可視化する取組が参考になったことから、今後、他の場面でも実施を検討する。

旭川市

「生活・学習A c t サミット」

〈 期 日 〉

令和6年（2024年）7月24日（水）

〈 会 場 〉

旭川市民文化会館 大会議室

〈 参加児童生徒数 〉

中学生 83名

1 事業の概要

旭川市内の全中学校の生徒会役員を中心とする生徒が集まり、専門家等の助言を参考にしながら、身近な問題を主体的に考え、話し合い、行動することで、学校生活をよりよいものにしていくことを目的としている。

【内容】

- 協議：旭川市いじめ防止基本方針を踏まえた児童生徒が主体となった取組の推進
- グループ及び全体交流・まとめ

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

生徒がいじめの問題を自分事として捉え、自ら考え、行動することによって各学校におけるいじめ防止の取組を充実させることができるよう、「2学期以降に中学校区で行う児童生徒が主体となったいじめの未然防止の取組の重点について見通しをもつ」をテーマに設定し、協議場面において、次の工夫を行った。

- 協議1として、学校いじめ防止基本方針（児童生徒版）や児童会・生徒会チャンネル（各学校でのいじめの未然防止の取組が掲載されたWebサイト）の内容を踏まえ、生徒が主体となった自校のいじめの未然防止等のための取組について交流する場面を設定し、生徒が、自校と他校の取組を比較・関連付けできるようにした。
- 協議2として、協議1での交流を踏まえ、生徒が自校の取組を検証する場面を設定し、2学期以降、中学校区で取り組む内容について焦点化できるようにした。
- 2つの協議では、弁護士や心理士、保護者など9名の専門家から適宜、助言を得ながら協議できるようにした。

3 今後の展望

- 各中学校が、校区の小学校と連携を図り、「生活・学習A c t サミット」で協議した取組を推進する。
- 今後も、旭川市内の全中学校の代表者が交流を深める「生活・学習A c t サミット」を継続し、いじめの問題について生徒が主体的に考えることができる活動を展開する。

羽幌町

羽幌中学校『心の健康授業』



〈 期 日 〉

令和6年(2024年)5月22日(水)・6月5日(水)・10月16日(水) ※学年ごとに実施

〈 会 場 〉

羽幌町立羽幌中学校

〈 参加児童生徒数 〉

136名(第1学年41名、第2学年58名、第3学年37名)

1 事業の概要

『心の健康授業』は、中1ギャップ問題未然防止プログラムの一環として、生徒の心身の不調和緩和と「SOSが出せる風土づくり」を目的に、発達の段階に応じた学年ごとの内容を最適な時期に設定し、令和2年度から継続的に実施している。特に令和元年度から、町配置のSCをゲストティーチャーとして、心理士の専門性を生かした「チーム援助の予防的・開発的アプローチ」に取り組んでいる。

【学年別の内容とねらい】

第1学年 『自分を大切にしよう～不安や悩みとの付き合い方～』

◆入学間もない第1学年の生徒に、悩みや不安との向き合い方を知らせる。

第2学年 『自分も相手も大切にしよう～コミュニケーションのカタチ～』

◆よりよい人間関係を築くため、自他の多様なものの見方や考え方、感じ方を理解させるとともに、自他共に大切にできるコミュニケーションの方法を考え、生活の中で実践できるようにさせる。

第3学年 『社会の中の自分～長所や持ち味の違う一人一人の存在を認め合おう～』

◆「他者が見ている自分」を知ること、社会的な役回りがあることに気付かせる。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

○ 授業づくりから本時、事後サポートまで、チームで支援すること。

【本時の役割分担】・ゲストティーチャー：SC

・進行：チーム援助コーディネーター

・生徒観察及びワーク指導：学年担当教員

○ 「心の成長」「SOS発信」は全学年共通の内容とし、第1学年時の指導をベースに毎年取り上げ、繰り返し伝えていくこと。

○ 生徒の発達の段階を考慮した上で、講話ばかりではなく、個人やグループでのワークを取り入れ、生徒が楽しく学べるよう学習過程を工夫したこと。

【学習過程】・第1学年「リフレーミング」個人→全体

・第2年生「アサーション」個人→グループ交流→発表

・第3年生「心の窓」個人→グループ〔聞き合う・認め合う〕→シェアリング

こんなときは注意！

・何事にもやる気が出ない
・気分が1日の間にころころ変わる
・ちょっとしたことで怒ってしまう
・十分な睡眠がとれない または、眠り過ぎてしまう
・食欲がわからない または、食べ過ぎてしまう
・原因不明の頭痛や腹痛がある
・自分なんかいないかと思う

(※本朝のうつ病チェックリストより抜粋)

...こんなことが続く場合は、心が悲鳴をあげているのかもしれない。
「誰か助けて～!!」SOSを発信しよう



【授業で活用した資料】

3 今後の展望

○ 工夫改善を図り、『心の健康授業』を繰り返してきたことにより、生徒からは、「自分の短所をこんなふうに言い換えられるなんてびっくりしたけれど、ちょっと嬉しい。」「自分の主張だけをするのではなく、相手のことを受け入れることが大事だと思った。」など生徒自らが心身の不調和緩和に向き合う機会とするとともに「SOSが出せる風土づくり」を進めることができた。

○ 学校全体の安心感が高まるよう、今後も本時と関連したメンタルヘルスやソーシャルスキル教育等を実施する必要がある。

中頓別町

まちとともに創る新しい学校づくり授業

〈 期 日 〉

令和6年（2024年）4月～令和7年（2025年）3月

〈 会 場 〉

中頓別町立中頓別小学校、中頓別町立中頓別中学校、中頓別町民センター

〈 参加児童生徒数 〉

121名（園児34名、小学生54名、中学生33名）

1 事業の概要

令和8年度の義務教育学校の開校及び令和9年度の町民複合施設への学校移転に向け、町内異校種や地域との連携を深め、諸課題の共有、円滑な接続を図るよう取り組む。

町内の全児童生徒・教職員・教育委員会職員・地域住民が協働で学校づくりに参画しながら、安心して希望に満ちた学校生活を送ることができる環境を整備し、絆を深めていくよう取り組む。

- 「中頓別学園の教育4つの柱」の実現に向け、教育委員会「新しい学校づくり推進室」に在籍する町指導主事を中心とした、アウトリーチ型アプローチや協働の場の設定
- 町指導主事と教職員が協働した、児童生徒の異学年交流や異校種の教職員との学校づくり意見交流を取り入れた「新しい学校づくり授業」や「とことんなかとんタイム」の実施
- 児童生徒及び地域住民を交えた地域づくり意見交流会「なかとんミーティング」の実施

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 多様な枠組みによる交流活動の場の設定
グループ編成に当たっては、学校づくり授業のテーマに合わせて、「幼児児童生徒全員」「隣接学年」「全校」「縦割り」「小中学校の教職員を入れ替えて」「外部ゲスト講師を含めて」など、多様な意見交流ができるよう、年間を通じて計画的に設定した。
- 校歌作成に向けて異校種の児童生徒による交流活動
児童生徒と小中学校の教職員を入れ替えた縦割り班を形成し、自分たちが暮らす町や新しい学校への思いを伝え合うことで、新たな人間関係の形成や多様な意見を認め合える関係を築くとともに、学校づくりを通じてふるさとへの愛着と誇り、児童生徒一人一人のつながりを構築できるように工夫した。
- 地域住民との交流
まちづくり協議会や役場職員、有志の町民と児童生徒が混じったグループを作成し、学校づくりについての交流を行った。地域住民の学生時代の思い出話やこれからの児童生徒に期待すること、地域課題を一緒に考える場を設定することで、児童生徒が未来の学校生活や中頓別町を思い描くなど、互いの絆や地域との絆を深めることができた。



【異学年で交流の様子】



【地域住民との交流の様子】

3 今後の展望

様々なグループによる交流を通して、児童生徒がお互いを知ることにより、義務教育学校開校に伴う環境の変化による不安の解消が図られるとともに、未来への希望をもった児童生徒同士の絆を深めることができた。

今後は、次のことを計画している。

- 「なかとんミーティング」や幼小中通した異学年交流の継続実施及び地域協力者の拡充
- 義務教育学校開校に向けた児童生徒の主体的な校則作成に関する、小中で連携した話し合い活動の設定 等

北見市

いじめのないまちづくり子ども会議

〈期 日〉

令和6年(2024年)12月24日(火)

〈会 場〉

北見市立北中学校

〈参加児童生徒数〉

43名(小学生14名、中学生29名)



【全体会の様子】

1 事業の概要

本会議は、北見市内の小中学校の代表者が集い、子ども一人一人がいじめを自らの課題として捉え、いじめの根絶に向けて主体的に取り組むとともに、子どもたちが主役となり、いじめ根絶について話し合い、今後の各学校での活動につなげる意欲を高めることを目的としている。

【内容】

- (1) いじめについての説明
- (2) 参加児童生徒によるグループ討議と発表・交流
テーマ：「北見市の小中学校・義務教育学校から『いじめ』をなくすために」
 - 討議の視点
 - ・ どうしていじめは起きるのか
 - ・ いじめを防ぐために児童会、生徒会、個人として何ができるのか



【討議内容の発表の様子】

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

北見市教育委員会の「いじめ・不登校対策コーディネーター」より、いじめに関わる説明及び問題提起を行った上で次の点を工夫し、グループ討議を行った。

- (1) 主体的に課題を解決しようとするための工夫
 - 児童会及び生徒会の代表が参加し、いじめの問題に対する自校の取組について実践交流を行うとともに、互いの取組のよさを交流することにより、いじめ根絶に向けた取組の成果について理解を深めることができた。
- (2) 多様な他者と協働し課題を解決するための工夫
 - メンバーを入れ替え2回のグループ討議を行うとともに、一人一台端末の共同編集機能を活用し、他のグループの意見を共有できるようにしたことにより、「『悪いところに目がいくからいじめが起きる』と意見があったため、相手のよいところを見付ける活動を行いたい。」等、他者の考えを組み合わせ、今後、自校で行いたい具体的な取組のアイデアを出し合うことができた。



【一人一台端末を活用した討議の様子】

3 今後の展望

- 成果を普及・啓発するための取組
本会議において参加者から出されたいじめをなくすための具体的な取組内容を、市内の各学校で共有することにより、児童会・生徒会が中心となって行う「いじめ根絶に向けた取組」と、令和6年8月29日(木)に北見市で宣言された「Myじんけん宣言」の取組の活性化につなげる。

更別村

どんぐり村子ども会議

〈 期 日 〉

令和6年(2024年)12月5日(木)

〈 会 場 〉

更別村立更別中央中学校

〈 参加児童生徒数 〉

10名(小学生6名、中学生4名)



1 事業の概要

いじめの根絶に向け、更別村立学校(中1校、小2校)の代表が、各学校のいじめ根絶に向けた特色ある取組を交流し、「いじめ根絶に向けて」「ネット・スマホ・ゲームとの付き合い方」の二つをテーマに協議することにより、中学校区の小・中学校の連携を深めるとともに、参加者が会議の内容を自校に還元し、いじめ根絶に向けた取組の充実を図る。

【会議の内容】

- 各学校のいじめ根絶に向けた取組を発表するとともに、取組がよりよくなるための意見を交流することで、各学校の取組の深化・充実を図った。
- 「ネット・スマホ・ゲームとの付き合い方」について話し合うことにより、インターネットを介したいじめの未然防止等に係る理解の深化を図った。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 中学校区における学校種間連携
中学校区の小・中学校3校の代表が集まり、各学校におけるいじめ根絶の紹介及び意見交流、テーマに沿った話し合いを行った。「更別村いじめをなくそう宣言」を基盤にした各学校のいじめの未然防止に係る取組を行っており、その取組を紹介し合うことにより、学校同士の交流やいじめ根絶に向けた小中連携の取組を推進した。
また、今年度は、更別村コミュニティ・スクールアクションプラン「心：思いやりのある子ども」「体：健康で元気な子ども」の実現に向けて、「いじめ根絶に向けて」と「ネット・スマホ・ゲームとの付き合い方」の二つをテーマに設定し、話し合った内容を各学校に持ち帰り、全児童生徒に周知することにより、中学校区における共通した意識の醸成を図るとともに、「いじめはどんな理由があっても許されない」という意識の高揚を図った。
- コミュニティ・スクールと「どんぐり村子ども会議」との関連
地域総がかりで子どもを育てる観点から、更別村コミュニティ・スクール委員会の重点の一つに「どんぐり村子ども会議」を設定して、各学校における目指す子ども像と関連付けて児童生徒が協議できるようテーマを設定した。
また、教育委員会のホームページに「どんぐり村子ども会議」の様子を掲載することにより、学校・家庭・地域の連携を強化するとともに、村全体で「いじめはどんな理由があっても許されない」という気運を高めた。

3 今後の展望

- 「いじめはどんな理由があっても許されないことだ」と回答する児童生徒の割合が100%になるよう、教育委員会と学校の連携を密にし、児童生徒が主体的にいじめについて考え、行動する機会の一層の充実を図る。
- コミュニティ・スクールとの連携を強化し、家庭や地域のいじめに対する理解を深めるとともに、地域総がかりでいじめ根絶に向けた意識を醸成していく取組の充実を図る。

白糠町

令和6年度白糠町「子ども会議 2024」

〈 期 日 〉

令和6年（2024年）7月30日（火）

〈 会 場 〉

北海道白糠高等学校

〈 参加児童生徒数 〉

18名（小学生2名、中学生9名、高校生7名）

1 事業の概要

- 目的
町内の児童生徒等が主体的にいじめ等の防止に向けた取組について協議等を行うことを通して、自校で取り組む内容の工夫改善を図るなど、児童生徒がいじめの防止に向けて自主的な活動ができるようにする。
- 主な内容
 - ・【実践発表】 よりよい学校生活に向けて（いじめの未然防止の取組、児童生徒会の特徴的な取組）
 - ・【説明】 白糠町の子どもたちの実態（いじめの実態、携帯のルールの状況等）
 - ・【協議】 よりよい生活に向けて（各校の実践発表から学ぶこと）

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- いじめ未然防止等に向けた各学校の取組の実践発表
児童生徒がいじめをしない態度や能力を身に付けるため、各学校の児童生徒会で取り組んでいるいじめの未然防止の取組の交流を行った。また、発達支持的生徒指導の側面を踏まえた取組となるよう、各学校の児童生徒会活動の特徴的な取組も合わせて交流し、望ましい人間関係づくりに向けて大切なことを自分事で考えることができるようにした。
- 町の児童生徒の実態の提示
直近及び前年度の「いじめの把握のためのアンケート」の回答状況と白糠町生徒指導研究協議会で取り組んでいる情報端末機器の使い方を家庭で検討してもらう「My ルール」の作成等に係る状況の集計結果を提示し、町の実態を客観的な根拠に基づいて捉える場を設定した。アンケート等の集計については、協議においても扱った。
- 生徒指導連絡協議会主催の事業設定
本会議の主催を白糠町生徒指導連絡協議会とし、青少年育成センターや町立学校関係者等で構成する委員が協力して運営に当たっている。こども会議等の運営に係る事前・事後の会議で協議を行った。
また、町内の道立高等学校の生徒が当日の進行を担当するなど、地域と連携した取組となるよう、体制を整備した。



3 今後の展望

- 町の生徒指導研究協議会主催の事業とし、委員相互で協議するなど、地域と連携した取組を継続する。
- 本会議の内容をまとめ、各学校に配付し、各学校のいじめ未然防止に向けた主体的な児童生徒会活動の充実を図る。
- 「いじめの把握のためのアンケート」における「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思わない」「嫌な思いをした時に、誰にも相談しない」の回答数の推移を分析し、本事業の検証を行う。

根室市

子どもたちの自主性、多様性を大切にした体験活動 (教育長と一緒に学ぼう!!!なるほどTHEネ～ムロ)

〈 期 日 〉

令和6年(2024年)8月1日(木)～2日(金)

※令和4年より毎年開催、今年で3回目

〈 会 場 〉

根室市総合文化会館、別当賀夢原館ほか

〈 参加児童生徒数 〉

16名(小学生15名、中学生1名) ※令和6年度参加数



【本取組のチラシの一部】

1 事業の概要

「子どもたちの、子どもたちによる、子どもたちのための2日間」をテーマに、子どもたち自らがルールやスケジュール、計画(何をして過ごすかなど)を決め、教育長と一緒に根室市内を巡りながら、別当賀夢原館(市内の生涯学習施設)に宿泊し、体験活動を行う。

【内容】

- 根室市内の自然体験活動
- 別当賀夢原館の宿泊体験

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 子どもたちの興味関心、好奇心が高まるよう、感性に基づく好奇心の追求を重点とし、ルール、プログラム、スケジュールがないことにより、全て子どもたちで考え、話して決めることを大切にしている。
- 子どもたちの自主性や多様性を尊重する心を養うために、引率者の大人が子どもたちに対して「みんなで一緒に」「～しなさい」といった言葉かけをするのではなく、「どうする?」「合わせなくていいよ」「自分で決めていいよ」といった言葉掛けを意識している。
- スマートフォンは持ち込みを禁止とし、自分で考え、言葉で相手に伝えることを大切にしている。



【景勝地で遊び尽くす子どもたち】

3 今後の展望

- 「子どもの成長が見える」と、参加者の保護者からも好評であることを踏まえ、今年度は定員を増やし、対象に中高生も加えた。引き続き、子どもたちの自主性や多様性を尊重する心を養うための活動内容及び引率者の関わり方を一層工夫し、本取組を継続していく。
- 活動全体を振り返る活動において、個人に留まらず、多様な感性に触れられるよう参加者同士の対話を通した振り返りを設定することなどを検討していく。



【根室の自然に触れる子どもたち】